

Oil Market Review 23第19号

2023年（令和五年）

8月25日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (-財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カシドキ10階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

8/3~8/9のNYMEX・WTI先物市場は81.55~84.40ドルの範囲で推移した。

8月10日は、買いが先行したが、前日までの価格上昇の反動で、利益確定売りが優勢となり、3日ぶりに反落した。9月物終値は前日比1.58ドル安の82.82ドル。週末11日は、国際エネルギー機関(IEA)が月報で、年内の需給ひつ迫・原油値上がりを予想したこと、反発した。9月物終値は同0.37ドル高の83.19ドル。

週明け14日は、中国の新規銀行融資の低迷や大手不動産会社の経営不安など中国経済の先行き懸念が高まり、反落した。9月物終値は、前週末比0.68ドル安の82.51ドル。15日は、中国の6月の経済指標が軒並み悪化、米国株価も軟化するなど先行き景気後退懸念から、続落した。9月物終値は、前日比1.52ドル安の80.99ドル。16日は、米国連邦公開市場委員会(FOMC)の7月議事要旨で、利上げ長期化が示唆され、景気後退懸念から続落、80ドルを割り込んだ。9月物終値は前日比1.61ドル安の79.38ドル。17日は、中国で検討中の景気刺激策への期待、ドル安進行に伴う原油先物の割安感、安値拾いの買いにより、4日ぶりに反発した。9月物終値は前日比1.01ドル高の80.39ドル。週末18日は、売り買いが交錯したが、根強い需給先行きひつ迫感に加え、米国稼働石油リグの減少報告もあり、続伸した。9月物終値は前日比0.86ドル高の81.25ドル。

週明け21日は、一転、中国景気への警戒感、米国の利上げ継続観測から、3営業日ぶりに反落した。9月物終値は、前週末比0.53ドル安の80.72ドル。22日は、引き続き、米中の景気後退懸念も強く、9月物納会日で、売買は交錯、ポジション調整の売りが多く、続落した。9月物終値は、前日比0.37ドル安の80.35ドル。23日は、欧米の購買担当者景況指数(PMI)の想定以上の低調さから、値下がりした。ただ、米国原油在庫の予想外の積み増しと米国株価の上昇が底値を抑えた。この日から中心限月に繰り上がった10月物終値は前

日比0.75ドル安の78.89ドル。

中東産ドバイ原油/東京市場(10月渡し)は、8月3日~9日の間、84.50~87.10ドルの範囲で推移。8月10日88.30ドル、14日86.80ドル、15日87.40ドル、16日86.10ドル、17日85.50ドル、18日86.20ドル、21日86.70ドル、22日86.40ドル、23日86.30円。

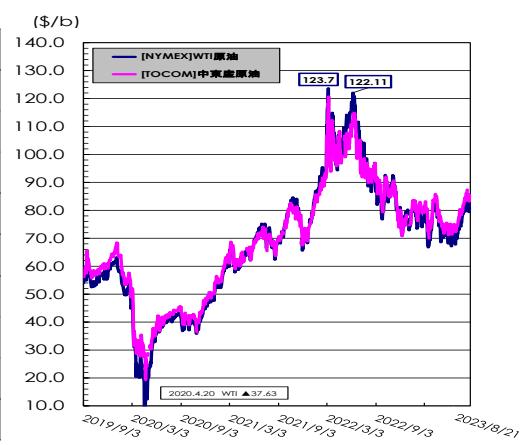
対ドル為替レート(USD)は、8月3日~8月9日の間、141.70~143.47円で推移。8月10日143.96円、14日145.11円、15日145.60円、16日145.72円、17日146.49円、18日145.71円、21日、145.33円、22日146.27円、23日145.72円。

財務省が8月17日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、7月下旬の原油輸入平均CIF価格は、71,246円で、前旬比1,181円安、ドル建て80.52ドルで前旬比0.66ドル高、為替レートは1ドル/140.65円。また、7月の原油輸入平均CIF価格は、72,053円で、前月比222円高、ドル建て80.47ドルで同1.52ドル安、為替レートは1ドル/142.35円。

そのような中で、8月14日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.6円の値上がり、軽油も同1.6円の値上がり、灯油は同23円の値上がり(18リットルベース)。ガソリン・軽油・灯油とともに13週連続の値上がり、ガソリン全国平均価格は181.9円であった。また、8月21日時点の価格は、ガソリンが前週比1.8円の値上がり、軽油も同1.7円の値上がり、灯油は同29円の値上がり(18リットルベース)。ガソリン・軽油・灯油とともに14週連続の値上がり、ガソリン全国平均価格は183.7円だった。

8月10日から燃料油価格激変緩和補助金は60%縮減となり、8月17日~23日の補助金の支給額は12.1円(従来ベースの補助額27.7円、25円以下は40%支給で10.0円、25円を超える部分2.7円は80%支給で2.1円)となった。また、8月24日から燃料油価格激変緩和補助金は70%縮減となり、8月24日~30日の補助金の支給額は10.0円(従来ベースの補助額28.0円、25円以下部分は30%支給で7.5円、25円を超える部分3円は85%支給で2.5円)となった。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千㎘)	8/13 ~ 8/19	3,028	▼ -86	▼ -
	トップ稼働率 (%)	"	81.7	▼ -2.3	▼ -
	原油在庫量 (千㎘)	8/19	12,226	▼ -19	▲ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	8/21	85.34	▼ -0.29	▼ -7.1
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	8/21	80.72	▼ -1.79	▼ -9.5
	原油 CIF 単価 (\$/bbl)	7月下旬	80.52	▲ 0.66	▼ -35.86
	①原油CIF単価 (¥/㎘)	"	71,246	▼ -1,181	▼ -28,333
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	140.65	▲ 3.53	▼ -4.62
	外国為替TTSレート (¥/\$)	8/21	146.33	▼ -0.22	▼ -8.16



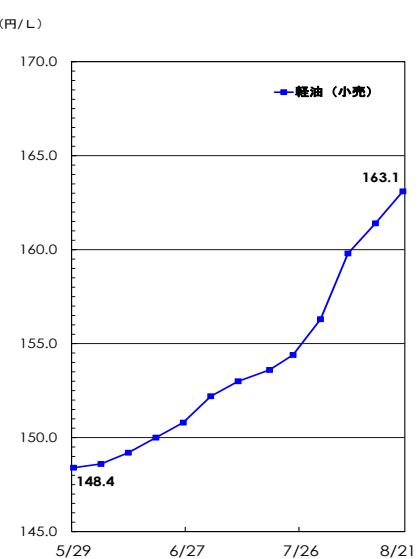
ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	生産	8/13 ~ 8/19	950	▲ 44	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	833	▼ -53	▲ -
	輸出	"	120	▲ 83	▲ -
	在庫	8/19	1,410	▼ -3	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/15 ~ 8/21	92.1	▲ 2.1	▲ 14.6
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	8/15 ~ 8/21	85.0	➡ 0.0	▲ 9.8
		8/21	96.0	▲ 7.0	▲ 18.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/21	183.7	▲ 1.8	▲ 14.7

※業転、先物価格は税抜き価格

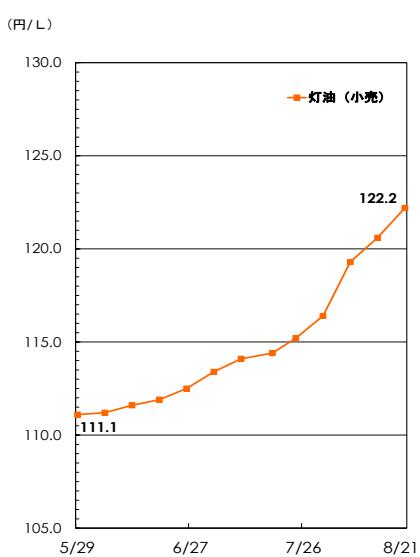


軽油		今週		前週比	前年比
需給	生産	8/13 ~ 8/19	674	▼ -13	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	388	▼ -148	▼ -
	輸出	"	105	▲ 23	▼ -
	在庫	8/19	1,543	▲ 180	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/15 ~ 8/21	90.2	▲ 1.9	▲ 15.5
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	8/15 ~ 8/21	92.6	▲ 1.1	▲ 13.2
		8/21	-	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/21	163.1	▲ 1.7	▲ 14.1

※業転、先物価格は税抜き価格



灯油		今週		前週比	前年比
需給	生産	8/13 ~ 8/19	175	▲ 14	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	40	▼ -64	▼ -
	輸出	"	50	▲ 50	▲ -
	在庫	8/19	2,124	▲ 86	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	8/15 ~ 8/21	90.2	▲ 1.3	▲ 15.5
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	8/15 ~ 8/21	84.0	➡ 0.0	▲ 9.1
		8/21	93.5	▲ 5.0	▲ 19.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	8/21	122.2	▲ 1.6	▲ 10.0



■ 関連情報

1 海外/原油

当週(8月10日～23日)のWTI石油先物市場は、10日に3か月ぶり高値の82.82ドルで始まり、週明け14日から3日続落、16日に80ドル割れの後、週末に向け続伸、週明け21日からは続落し、23日78.89ドルで終わった。先行き需給ひつ追観測は後退、景気後退懸念が再び優勢となった。

8月16日発表の11日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計によれば、原油在庫は市場予想(230万バレル減)を上回る600万バレルの取り崩しだったが、ガソリン在庫は市場予想を下回る小幅な減少と市場への影響は限定的。また、8月23日発表の18日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計によれば、原油在庫は市場予想(290万バレル減)を上回る610万バレルの取り崩しだったが、ガソリン在庫は予想外の積み増しと市場への影響は限定的。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2023年8月13日～8月19日に休止したトッパー能力は20.5万バレル/日で、前週に対して2.9万バレル/日増加した(全処理能力は333.1万バレル/日)。

原油処理量は302.8万kLと、前週に比べ8.6万kL減少。前年に対しては21.9万kLの減少。トッパー稼働率は81.7%と前週に対して2.3ポイントの減少、前年に対しては2.7ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/4.8%増、ジェット/8.2%減、灯油/8.5%増、軽油/1.9%減、A重油/10.9%減、C重油/6.5%増。今週のC重油の輸入は5.3万kL(前週比4.6万kL増)。軽油の輸出は10.5万kL(前週比2.3万kL増)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてジェット、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、ジェットが増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は83.3万kL(対前週5.9%減)と2週連続で減少した。ジェット9.6万kL(対前週15.0%増)、灯油4.0万kL(対前週61.5%減)、軽

EIAによると、8月14日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比2.2セント値上がりの1ガロン3.850ドル(148.4円/㍑)と6週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比13.9セント高と4週連続の値上がりの1ガロン4.378ドル(168.8円/㍑)。また、8月21日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比1.8セント値上がりの1ガロン3.868ドル(149.3円/㍑)と7週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比1.1セント高と5週連続の値上がりの1ガロン4.389ドル(169.5円/㍑)。

ベーカーヒューズ社によると、8月11日時点で、米国内稼働石油掘削装置は、前週比横ばいの525基と9週ぶりに減少が止まった。また、8月18日時点で、前週比5基減の520基と2週ぶりに減少した。

油 38.8万kL(対前週27.5%減)、A重油10.7万kL(対前週18.8%減)、C重油19.1万kL(対前週24.7%増)。

(単位:千kL)

	今週 (8/13～8/19)	前週 (8/6～8/12)	前週比
ガソリン	833	886	▼ -53 (-6%)
ジェット燃料	96	83	▲ 13 (16%)
灯油	40	104	▼ -64 (-62%)
軽油	388	536	▼ -148 (-28%)
A重油	107	131	▼ -24 (-18%)
C重油	191	153	▲ 38 (25%)
合 計	1,655	1,893	▼ -238 (-13%)

※今週出荷量 = (前週末在庫+今週生産+今週輸入) - (今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

8月19日時点の在庫はガソリンが取り崩しとなり、その他他の油種で積み増しとなった。前年に対しては全ての油種で増加した。

ガソリンは141.0万kL、前週差0.3万kL減。前年に対しては1.7万kL多い。

灯油は212.4万kL、前週差8.6万kL増。前年に対しては25.0万kL多い。

軽油は154.3万kL、前週差18.0万kL増。前年に対しては3.9万kL多い。

A重油は73.1万kL、前週差1.8万kL増。前年に対しては3.0万kL多い。

C重油は200.6万kL、前週差7.3万kL増。前年に対しては22.5万kL多い。

(単位:千kL)

	今週 (8/19)	前週 (8/12)	前週比
ガソリン	1,410	1,413	▼ -3 (-0%)
ジェット燃料	874	851	▲ 23 (3%)
灯油	2,124	2,038	▲ 86 (4%)
軽油	1,543	1,363	▲ 180 (13%)
A重油	731	713	▲ 18 (3%)
C重油	2,006	1,933	▲ 73 (4%)
合 計	8,688	8,311	▲ 377 (4.5%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

8月8日～14日のドル建て中東原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、元売会社の卸価格建値は2.5円の値上がりになったものと見られる。上記コストに先週の補助金額12.0円を加え、今週の補助金12.1円を差し引いた、8/17～8/23の実質卸価格は2.4円の値上げとなった模様。

また、8月15日～21日のドル建て中東原油価格は値下が

り、これを為替レートの円安が一部相殺し、元売会社の卸価格建値は0.5円の値下がりになったものと見られる。上記コストに先週の補助金額12.1円を加え、今週の補助金10.0円を差し引いた、8/24～8/30の実質卸価格は1.6円の値上げとなつた模様。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

8月15日～21日の製品スポット市況は、8月8日～14日平均と比べ、ガソリンと灯油の先物取引の横ばいを除き、他の油種・取引で値上がりした。

直近週(8/15～8/21)の陸上スポット価格平均値は、前週(8/8～8/14)比で、ガソリンは2.1円の値上がり、灯油も1.3円の値上がり、軽油も1.9円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近週(8/15～8/21)に、前週(8/8～8/14)比で、ガソリンは1.6円の値上がり、灯油も1.3円の値上がり、軽油も1.6円の値上がりだった。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油も横ばい、軽油は1.1円の値上がりだった。

		(単位: 円/㎘)		
[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (8/15～8/21)	前週 (8/8～8/14)	前週比
ス ポ ツ ト 価 格	レギュラー	92.1	90.0	▲ 2.1
	灯油	90.2	88.9	▲ 1.3
	軽油	90.2	88.3	▲ 1.9

		(単位: 円/㎘)		
[期近物/終値 [平均]]		今週 (8/15～8/21)	前週 (8/8～8/14)	前週比
先 物 価 格	レギュラー	85.0	85.0	➡ 0.0
	灯油	84.0	84.0	➡ 0.0
	軽油	92.6	91.5	▲ 1.1

※上記価格は税抜き価格

参考値 (8/15～8/21実績値) (単位: 円/㎘)			
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 2.1	➡ 0.0	▲ 1.1
灯油	▲ 1.3	➡ 0.0	▲ 0.6
軽油	▲ 1.9	▲ 1.1	▲ 1.5
A重油	▲ 1.6		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

8月14日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.6円高の181.9円、軽油も1.6円高の161.4円、灯油も18.4%ベースで23円高の2,171円(18.4%ベースでは1.3円高の120.6円)。ガソリンは13週連続の値上がり、軽油も13週連続の値上がり、灯油も13週連続の値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは45都道府県、横ばいは1県、値下がりも1県だった。全国最安値は岩手県の178.9円、その次は兵庫県の179.6円であった。他方、最高値は長野県の192.3円だった。最も値上がりしたのは岡山県(前週比3.1円高)、横ばいは滋賀県だった。なお、史上最高値を更新したのは、山形県(4週連続)、栃木県・群馬県・長野県(3週連続)、香川県・沖縄県(2週連続)、大阪府・茨城県・福井県・島根県・宮崎県・鹿児島県の12府県だった。

8月21日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.8円高の183.7円、軽油も1.7円高の163.1円、灯油も18.4%ベースで29円高の2,200円(18.4%ベースでは1.6円高の122.2円)。ガソリンは14週連続の値上がり、軽油も14週連続の値上がり、灯

油も14週連続の値上がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは46都道府県、横ばいは1県、値下がりはなかった。全国最安値は岩手県の178.9円、その次は兵庫県の179.6円であった。他方、最高値は長野県の192.3円だった。最も値上がりしたのは岡山県(前週比3.1円高)、横ばいは滋賀県だった。なお、史上最高値を更新したのは、山形県(4週連続)、栃木県・群馬県・長野県(3週連続)、香川県・沖縄県(2週連続)、大阪府・茨城県・福井県・島根県・宮崎県・鹿児島県の12府県だった。

次回調査時(8/28)のガソリンの小売価格は、値上がりが予想される。

(単位: 円/㍑)				
(資源公表) [週動向]	今週 (8/21)	前週 (8/14)	前週比	直近高値
小 売 価 格	レギュラー	183.7	181.9	▲ 1.8
	灯油	122.2	120.6	▲ 1.6
	軽油	163.1	161.4	▲ 1.7

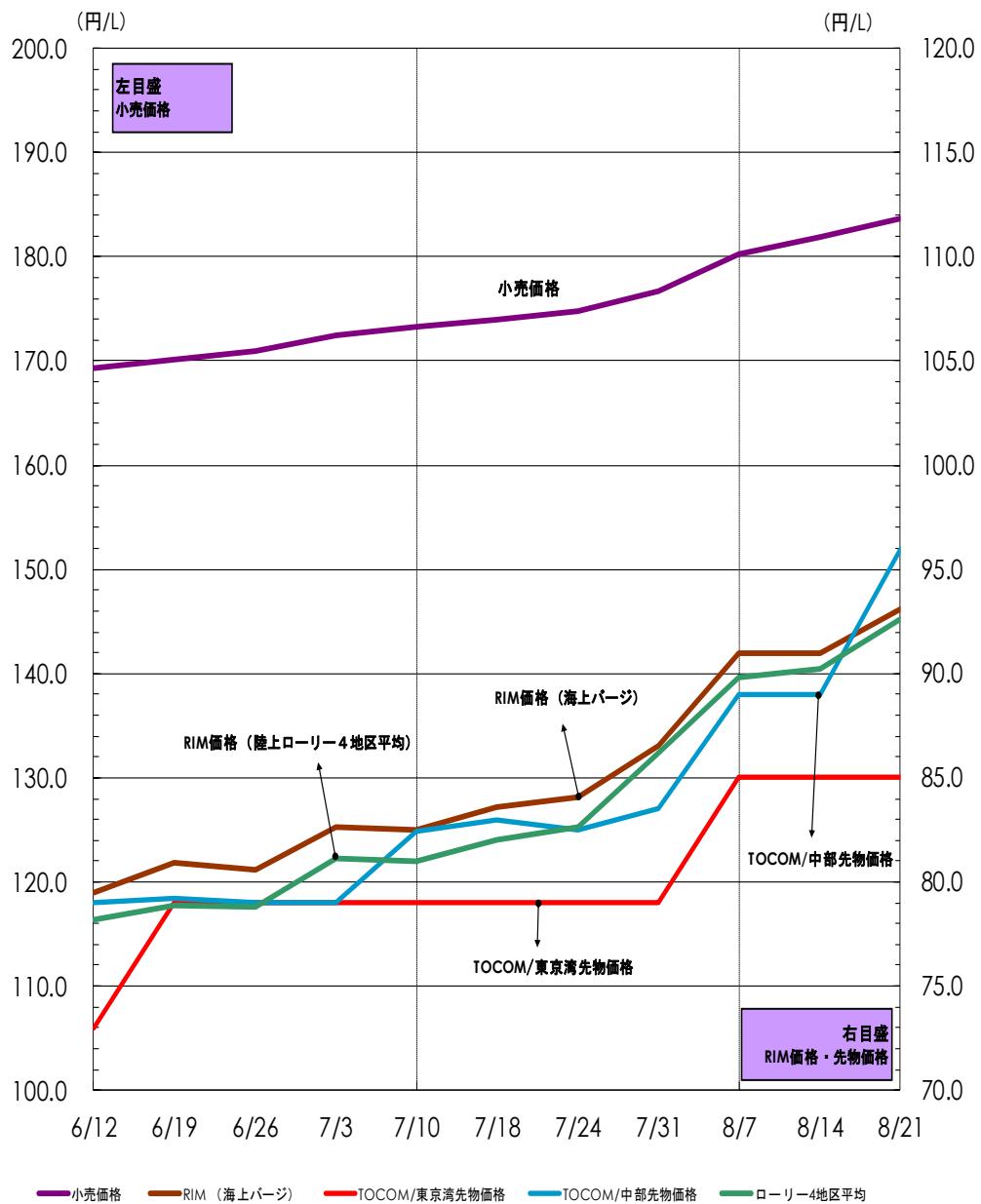
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2023/6/12 ~ 2023/8/21)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格

②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。

次回（2023第20号）の公表は、9/1（金）14:00です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。